

631名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。2月遅れの、放送での入学式になってしまいました。新型コロナウイルス感染拡大の状況下での、このようなスタートは残念でなりません。

ですが、「明朗・真摯・友愛」のすがすがしい校風の下で、さわやかで明るく、のびやかで、何事にもひたむきに取り組む高校生活を今日から開始していきましょう。

千葉経済大学附属高校は、がんばる皆さんを心から惜しみなく応援して、本校に入学してよかった、本校で学んでよかったとっていただけるように、心を一つにして教育を展開していきます。どうか、思い切り充実した日々を送ってください。

5月中の3回の分散登校で出迎えた新入生の皆さんは、とてもうまいしくて、しかも、「高校生としての芯」がすでにしっかり据わっているようで頼もしく思いました。

感染拡大はいつ収束するのか、第2波にいつ見舞われるのか、まったく予断は許されません。それほどコロナは手ごわくて、人間社会にスキがあれば付け入ってきて、たくさんの人の健康をむしばみます。

どうか「密閉・密集・密接」の3密に手を抜くことなく、「うがい・手洗い・マスク着用」を周到に行って、コロナを飛沫感染と接触感染でうつす人、うつされる人になることを避けることにします。「健康チェック」には家族の皆が気を配って、コロナと上手に向き合う日々をこれからも送ります。

さて、新入生の皆さんに熱い期待を寄せて、1つの言葉を贈ります。それは「高く強い木は、深く根を張っている」という言葉です。

空に届かんばかりに、そびえ立つ高い木があります。嵐が来てもビクともしない強い木があります。そういう木は、私たちの目には見えませんが、地下深くに根を張りめぐらせているのです。

根の張り方が足りない木は、どうなるのでしょうか。大風に吹かれると、もろくも倒れてしまいます。雨が降らずに日照りがつづく、枯れ始めてしまいます。

ところで、高く強いその木は、最初から堂々とそこに立っていたのではありません。最初にかぼそい小さな木であったのです。

その小さな苗木が、年を経るごとに少しずつ少しずつ根を伸ばしてひろげ、幹を太らせ、葉を茂らせ、通る人が思わず見上げて立ち止まるような大木に生長を遂げたのです。

私たち人間の成長も、木と同じと考えられます。誰もが生まれた時は、両手で持てるような小さな赤ん坊でした。その赤ん坊が乳を呑み、親のすることをまね、周りにいる人の行いを手本にして少しずつ大きくなって、学校に通うようになります。

そして、自分の心でたくさんを感じ取り、自分の頭でたくさんを考えて毎日を過ごす。そうしているうちに、一緒に居ると心の安らぐ人、悩みがあったら相談したい人

として、信頼されるようになっていくのです。

この世に誕生してから 15 年を生きて、高校生になった皆さんです。今日からはよりいっそう高い木、よりいっそう強い木になることを志して、深い学びを始めていきましょう。

新校舎のエントランスには、東京芸術大学を卒業した同窓生の綿引はるなさんの日本画の大作「生命」が飾られています。たくましく根を伸ばし、歴史や文化までも吸い取って成長を遂げていく樹の絵です。この絵を見上げて、生きる力をみなぎらせる 3 年間を送ってください。

この夏はインターハイなどの全国大会が中止になって、上級生は悔しさをかみしめています。新校舎のエントランスにずらっと掲示しているように、数多くの部活動が関東でも全国でも名をとどろかせて活躍してきているのです。

資格取得においても、経済産業省の I T パスポートの国家試験や各種の資格試験に挑戦して合格する生徒が、毎年数多く出ています。高校生には取得の難しい高度の資格を取得した生徒には奨学奨励制度あって、昨年は 41 名がその榮譽に浴しました。

この 3 月の卒業生も、志望する大学・短期大学・専門学校に進学を決め、東京都の公務員試験に合格したりさまざまな職種に就職したりして次のステップに進みました。皆さんも、自分の得意な分野でコツコツと地道な努力を重ねて、オンリーワンの花を咲かせてください。

ところで、皆さんの中にはこの 2 月間、授業を受けることができず、家庭での課題学習がつづいたことで、身に着けるべき学力が身に着けられなかったと心配している人がいると思います。その心配はよくわかりますが、いま、どのような学力が国から求められているかここで確認したいと思います。

それは「学力の 3 要素」と言われていて、「教科書に書かれている知識やコンピュータなどの技能」を覚えることだけが「学力」ではないということです。覚えた知識や技能を活用して「自らの課題を発見してその解決に向けて探求し、その成果を表現」していく。そのために必要な「思考する力や判断する力や人に伝える力」を第 2 の学力と言って、この学力を磨くことが求められているのです。

そして第 3 に培わなければならない学力は、「これからの予測の難しい時代」を生きていくために必要な態度、「主体的に多様な人々と協働して取り組む態度」です。これらの「3 つの学力」の養成が学校に求められているのです。

ですから、この 2 月間、確かに「基礎的な知識や技能」を教室で学ぶ機会は失われました。しかし、中学生であった 3 月からこれまで、皆さんは感染が拡大するこの大変な時代をどのように生きていったらいいか、深刻なこの問題と向き合って真摯に生きてきているのです。

政治家や専門家の教えることに耳を傾けて自らに問いかけ、家族で考え合う。きわめて意

味のある学びの時間を過ごしていることを自覚してください。それは私自身も先生方も同じです。教科書のどこにも書かれていないこの深刻な大問題と向き合って知恵を絞る毎日です。

高校時代に身に着けたい第1の「基礎的な知識や技能」については、これからの3年間に必ず補っていきます。ですから、いま空疎な日々を送っているとはけっして思わないで、第2・第3の「深い学び」の機会を生きていると認識して、しっかり生きていってほしいと思います。

そのような観点でお知らせしておきたいのは、文部科学省が昨年度から提唱している「ポートフォリオ」と言われる、日々行っている様ざまな活動を自分の財産として記録するという試みです。

皆さんが自信をもって記載する、これから行うことになる「高校時代の活動の記録」は、進学や就職の際に「高校生活の充実度」を示すものとして、学業成績とともに高く評価されて活かされていきます。ですから、これからの3年間に取り組む、例えば部活動や資格取得、学外での活動やボランティア活動などの足跡をしっかりと記録に留めていきます。

難度の高い資格試験に全力で挑んだり、皆と力を合わせて自主的に取り組んだりしたことをポートフォリオで評価して、皆さんの「将来性」を読み取ろうとするこの制度を存分に活かして、勉学に励むとともに「密度の濃い3年間」を送って行ってください。

最後に一言、校歌を早く覚えて、からだの隅々まで千葉経済大学附属高校の生徒になりきってください。上級生と睦まじく過ごす、「明朗・真摯・友愛」のキャンパスが一日も早く訪れることを祈り、「よりいっそう高い木、よりいっそう強い木になろう」と誓って、入学式の式辞とします。